石　川　県
学校保健統計調査

平成25年度

石川県県民文化局

はじめに

学校保健統計調査は、幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的としており、統計法に基づく基幹統計調査として文部科学省が昭和２３年以降毎年実施しているものです。

この報告書は、平成25年度に実施した「学校保健統計調査」の結果をまとめたものであり、学校保健行政推進の一助として、広く関係各方面において活用していただければ幸いです。

なお、調査の実施にあたり、多大なご協力をいただきました調査実施校、関係各位に対し厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご協力を賜わりますようお願いします。

平成２６年２月

石川県県民文化局長　　森 田　美 恵 子

目　　次

利用者のみなさんへ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

調査結果の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅰ　発育状態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

１　平均体格 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

(1) 各年齢間の体格差 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

(2) 男女の体格差 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

２　30年前（昭和58年度）の体格との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

(1) 17歳（高校３年生）の体格の比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

(2) 体格差の最も大きい年齢 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

３　30年前（昭和58年度）の発育量との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

(1) 総発育量の比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

(2) 年間発育量の最も大きい年齢 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅱ　健康状態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

１　疾病・異常被患率の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

２　主な疾病・異常被患率の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

Ⅲ　全国値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

１　発育状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

(1) 全国平均体格との差 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

(2) 総発育量の全国平均値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

(3) 17歳（高校３年生）の身長の全国平均値との比較 ・・・・・・・・・・・・・ 12

(4) 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

(5) 痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

２　健康状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

主な疾病・異常被患率の全国平均値との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

統　計　表

別表1　年齢別、男女別体格の平均値及び標準偏差（全国、石川県） ・・・・・・・ 17

別表2　年次別、年齢別、男女別身体計測値の推移（全国、石川県） ・・・・・・・ 19

別表3　学校種類別、男女別疾病・異常被患率（全国、石川県） ・・・・・・・・・ 21

別表4　主な疾病・異常被患率の推移（全国、石川県） ・・・・・・・・・・・・・ 23

別表5　年次別、男女別発育量の推移（石川県） ・・・・・・・・・・・・・・・ 25

付　属　資　料

都道府県別　身長・体重・座高の平均値及び標準偏差・・・・・・・・・・・・・ 26

利用者のみなさんへ

1　調査の目的

この調査は、児童、生徒及び幼児の発育及び健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的とする。

2　調査の範囲・対象

（1） 調査の範囲は、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定した学校（以下「調査実施校」という。）である。

（2） 調査の対象は、調査実施校に在籍する満5歳から17歳(平成25年4月1日現在）までの幼児、児童及び生徒の一部である。

3　調査期日及び項目

平成25年4月から6月までの間に実施された学校保健安全法による健康診断結果に基づき下記の事項について調査した。

（1） 幼児、児童及び生徒の発育状態（身長、体重、座高）に関する事項

（2） 幼児、児童及び生徒の健康状態（疾病・異常）に関する事項

聴力検査（難聴）、結核検査、結核に関する検診、心電図検査、尿糖検査、寄生虫卵検査、永久歯のう歯等数については調査対象年齢（学年）が次表のとおり限定されている。

区　分	幼稚園	小　学　校						中 学 校			高 等 学 校		
	5歳	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
聴　力　検　査	－	○	○	○	－	○	－	○	－	○	○	－	○
結　核　検　査	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－
結核に関する検診	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－
心 電 図 検 査	－	○	－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－
尿　糖　検　査	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
寄 生 虫 卵 検 査	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－
永久歯のう歯等数	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－
上 記 以 外 の 検 査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

（注）　○印は調査対象年齢である。

4　調査の範囲・対象・抽出の方法

調査における標本抽出の方法は、各学校種毎に調査実施校を抽出し、発育状態調査では更に幼児、児童及び生徒を抽出する。また、健康状態調査では、調査実施校の在籍者全員を対象としている。

なお、標本抽出の結果、得られた調査対象者数は次表のとおりである。

区　　分	学校総数（校）	幼児・児童・生徒総数（人）	調査実施校数（校）	調査対象者数（人）	
				発育状態	健康状態
総　　数	457	136,744	148	12,836	65,004
幼　稚　園	73	8,086	28	1,011	1,479
小　学　校	230	62,954	58	5,365	26,256
中　学　校	98	33,736	37	4,276	18,704
高等学校	56	31,968	25	2,184	18,565

5　利用上の注意

(1)　身体計測値及び疾病・異常被患率の石川県数値については、小数第2位を四捨五入し、標準偏差及び疾病・異常被患率の全国数値については、少数第3位を四捨五入した。

(2)　統計表の符号の用法は、皆無「－」、調査対象外「…」、単位未満「0.0」「0.00」、減少「△」とした。

(3)〔X〕は疾病・異常被患率等の標準誤差5％以上、受検者数が100人（5歳児は50人）未満又は回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

(4)　この報告書の数値については、後日文部科学省が発表する「平成25年度学校保健統計調査」の数値を確定値とする。

調 査 結 果 の 概 要

Ⅰ 発育状態

1 平均体格 （表１、図１、別表１参照）

平成25年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長、体重及び座高の平均値を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

(1) 各年齢間の体格差

① 身 長

男子は、11歳と12歳の間が7.6cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.6cmと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が6.6cmと最も大きく、14歳と15歳の間及び16歳と17歳の間が0.1cmと最も小さい。

② 体 重

男子は、11歳と12歳の間が6.4kgと最も大きく、16歳と17歳の間が1.2kgと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が5.2kgと最も大きく、16歳と17歳の間が△0.1kgと最も小さい。

③ 座 高

男子は、11歳と12歳の間が3.8cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.3cmと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が3.5cmと最も大きく、14歳と15歳が0.1cmと最も小さい。

表１ 年齢別、男女別体格の平均値と男女差

区分		身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
		男子	女子	差	男子	女子	差	男子	女子	差
幼稚園	５歳	110.9	109.7	1.2	19.0	18.5	0.5	62.2	61.6	0.6
小学校	６歳	117.2	115.5	1.7	21.6	21.0	0.6	65.1	64.5	0.6
	７歳	123.0	121.7	1.3	24.4	23.7	0.7	67.9	67.6	0.3
	８歳	128.7	127.3	1.4	27.5	26.1	1.4	70.5	70.0	0.5
	９歳	134.5	133.8	0.7	31.0	30.2	0.8	73.2	72.9	0.3
	10歳	140.0	140.1	△0.1	34.9	33.7	1.2	75.6	75.8	△0.2
	11歳	145.6	146.7	△1.1	38.5	38.9	△0.4	78.0	79.3	△1.3
中学校	12歳	153.2	152.5	0.7	44.9	43.9	1.0	81.8	82.7	△0.9
	13歳	159.8	155.6	4.2	48.7	48.0	0.7	85.2	84.5	0.7
	14歳	165.8	157.0	8.8	53.9	49.5	4.4	88.6	85.3	3.3
高等学校	15歳	168.8	157.1	11.7	60.0	51.6	8.4	90.7	85.4	5.3
	16歳	170.4	158.4	12.0	61.8	52.7	9.1	91.8	86.1	5.7
	17歳	171.0	158.5	12.5	63.0	52.6	10.4	92.1	86.3	5.8

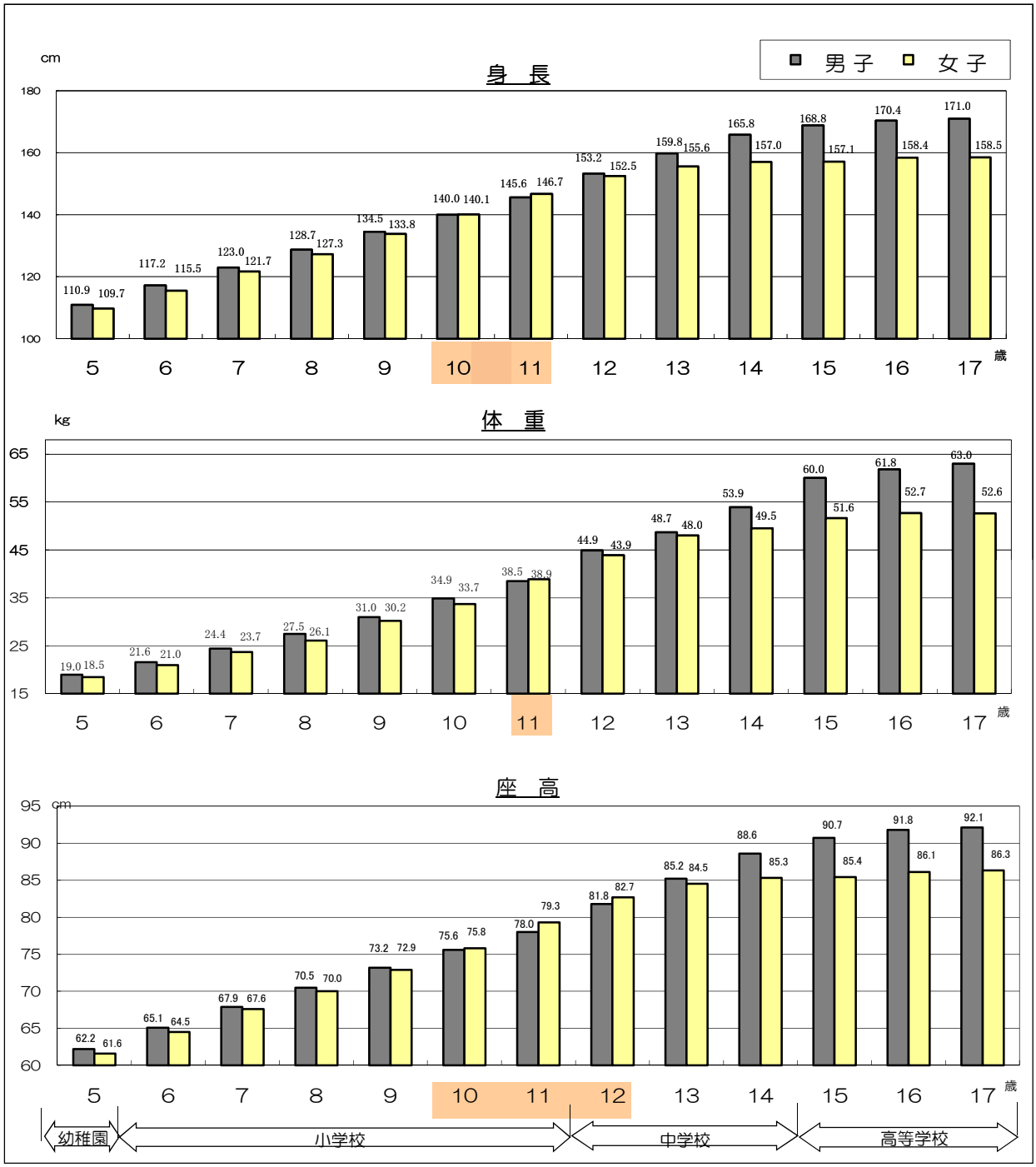
(注)1 「差」は、男子の数値から女子の数値を差し引いたものである。

(注)2 網掛けの部分は、調査実施以来最高を示す。

(2) 男女の体格差

女子が男子を上回る発育年齢は、身長では10歳、11歳、体重では11歳、座高では10歳～12歳で、その差の最大は、身長では11歳の1.1cm、体重では11歳の0.4kg、座高では11歳の1.3cmとなっている。この時期を過ぎると男子が女子を上回り、17歳での差は、身長12.5cm、体重10.4kg、座高5.8cmとなっている。

図１　男女別、年齢別平均体格



２　30年前（昭和58年度）の体格との比較　　**（表２、別表２参照）**

平成25年度と30年前の昭和58年度の体格を比較してみると、男子は5歳6歳の座高、女子は、5歳身長、体重、座高と6歳身長、座高、14歳体重、15歳身長、体重、座高、16歳と17歳の体重を除くすべてにおいて向上している。

(1) 17歳（高校3年生）の体格の比較

17歳の体格を比較すると、30年前に比べて男子は身長が0.2cm高く、体重が1.1kg多く、座高が0.8cm高くなっている。女子は身長が0.3cm高く、体重が0.6kg少なく、座高が0.8cm高くなっている。

(2) 体格差の最も大きい年齢

30年前と比べ最も差の大きい年齢は、男子は身長12歳、体重12歳、座高12歳となっている。女子は身長9歳、10歳、15歳、体重16歳、座高17歳となっている。

表２　30年前の体格との比較

区分			身長（cm）			体重（kg）			座高（cm）		
			平成25年度	昭和58年度	差	平成25年度	昭和58年度	差	平成25年度	昭和58年度	差
男子	幼稚園	５歳	110.9	110.7	0.2	19.0	18.9	0.1	62.2	62.3	△0.1
	小学校	６歳	117.2	116.5	0.7	21.6	21.3	0.3	65.1	65.3	△0.2
		７歳	123.0	122.2	0.8	24.4	23.7	0.7	67.9	67.8	0.1
		８歳	128.7	127.4	1.3	27.5	26.3	1.2	70.5	70.3	0.2
		９歳	134.5	132.8	1.7	31.0	29.3	1.7	73.2	72.5	0.7
		10歳	140.0	138.1	1.9	34.9	33.0	1.9	75.6	74.7	0.9
		11歳	145.6	143.8	1.8	38.5	36.8	1.7	78.0	77.1	0.9
	中学校	12歳	153.2	150.2	3.0	44.9	41.5	3.4	81.8	80.2	1.6
		13歳	159.8	158.2	1.6	48.7	47.4	1.3	85.2	84.0	1.2
		14歳	165.8	164.6	1.2	53.9	53.3	0.6	88.6	87.7	0.9
	高等学校	15歳	168.8	168.3	0.5	60.0	58.3	1.7	90.7	89.8	0.9
		16歳	170.4	169.9	0.5	61.8	59.9	1.9	91.8	90.9	0.9
		17歳	171.0	170.8	0.2	63.0	61.9	1.1	92.1	91.3	0.8
女子	幼稚園	５歳	109.7	110.4	△0.7	18.5	18.7	△ 0.2	61.6	62.2	△0.6
	小学校	６歳	115.5	115.9	△0.4	21.0	20.7	0.3	64.5	64.9	△0.4
		７歳	121.7	121.3	0.4	23.7	23.1	0.6	67.6	67.4	0.2
		８歳	127.3	127.0	0.3	26.1	26.0	0.1	70.0	69.9	0.1
		９歳	133.8	132.9	0.9	30.2	29.3	0.9	72.9	72.5	0.4
		10歳	140.1	139.2	0.9	33.7	33.4	0.3	75.8	75.4	0.4
		11歳	146.7	145.9	0.8	38.9	38.1	0.8	79.3	78.7	0.6
	中学校	12歳	152.5	151.7	0.8	43.9	43.2	0.7	82.7	82.1	0.6
		13歳	155.6	155.1	0.5	48.0	46.9	1.1	84.5	83.9	0.6
		14歳	157.0	156.6	0.4	49.5	49.7	△0.2	85.3	84.8	0.5
	高等学校	15歳	157.1	158.0	△0.9	51.6	52.6	△1.0	85.4	85.8	△0.4
		16歳	158.4	157.7	0.7	52.7	53.9	△1.2	86.1	85.7	0.4
		17歳	158.5	158.2	0.3	52.6	53.2	△0.6	86.3	85.5	0.8

3　30年前（昭和58年度）の発育量との比較　　（表３、図２、別表５参照）

5歳から17歳まで12年間の総発育量と年間発育量の最も大きい年齢について、今年度調査の17歳（平成7年度生まれ）と30年前調査の17歳（昭和40年度生まれ）を比較すると、次のとおりである。

(1) 総発育量の比較

今年度17歳（平成7年度生まれ）の総発育量を30年前と比較すると、身長では、男子0.9cm減、女子0.6cm減、体重では、男子0.8kg増、女子0.9kg減、座高では、男子1.4cm増、女子も1.4cm増となっている。

(2) 年間発育量の最も大きい年齢

今年度17歳（平成7年度生まれ）の年間発育量をみると、男子は、身長は10歳・12歳時、体重は11歳時、座高は11歳時が最も大きく、女子は、身長10歳時、体重10歳時、座高5歳時が最も大きい。

一方、30年前の17歳（昭和40年度生まれ）の年間発育量は、男子は身長、体重、座高ともに 12歳時が最も大きく、女子は身長10歳時、体重は10歳時、座高は11歳時が最も大きい。

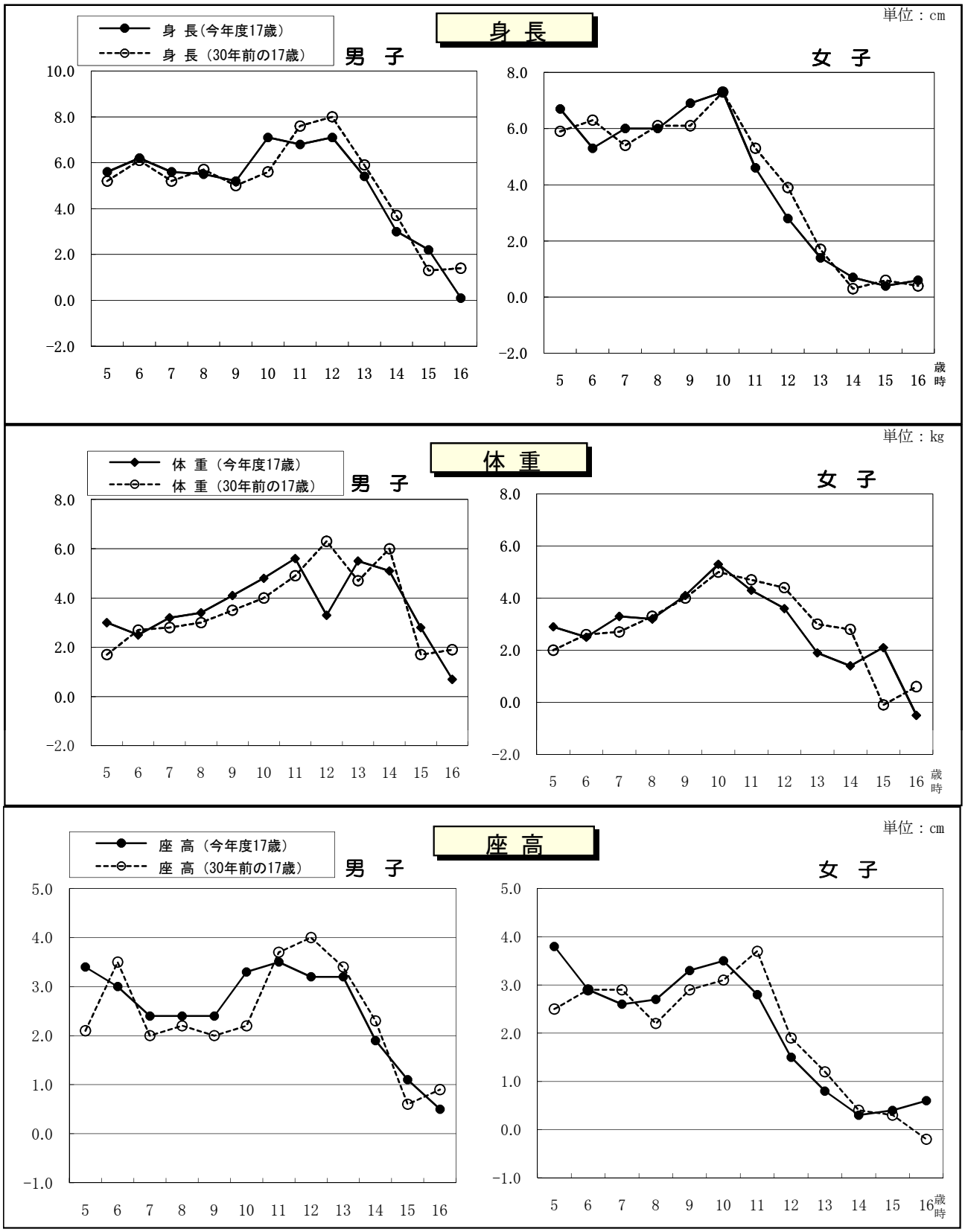
表３　年次別、男女別、発育量の比較

区分		男子				女子			
		５歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	５歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢
身長 cm	昭和 40 年度生まれ	110.1	170.8	60.7	12歳時	108.9	158.2	49.3	10歳時
	50	110.6	171.4	60.8	11歳時	109.9	158.6	48.7	10歳時
	60	110.8	171.6	60.8	11歳時	110.0	158.5	48.5	10歳時
	平成 2	111.1	171.3	60.2	12歳時	110.1	158.4	48.3	10歳時
	7	111.2	171.0	59.8	10歳・12歳時	109.8	158.5	48.7	10歳時
体重 kg	昭和 40 年度生まれ	18.7	61.9	43.2	12歳時	18.2	53.2	35.0	10歳時
	50	18.9	62.8	43.9	11歳時	18.6	54.4	35.8	10歳時
	60	19.2	64.2	45.0	11歳時	18.8	53.5	34.7	11歳時
	平成 2	19.3	64.2	44.9	10歳・11歳時	18.8	53.6	34.8	11歳時
	7	19.0	63.0	44.0	11歳時	18.5	52.6	34.1	10歳時
座高 cm	昭和 40 年度生まれ	62.4	91.3	28.9	12歳時	61.7	85.5	23.8	11歳時
	50	62.5	91.7	29.2	11歳時	62.5	85.9	23.4	10歳時
	60	62.4	92.1	29.7	11歳時	61.7	85.7	24.0	9歳時
	平成 2	62.0	92.3	30.3	11歳時	61.4	85.9	24.5	5歳時
	7	61.8	92.1	30.3	11歳時	61.1	86.3	25.2	5歳時

(注)1　総発育量とは、例えば40年度生まれの総発育量は、40年度生まれの「17歳時の体格」から「5歳時の体格」を引いたものである。

(注)2　出生年度については、例えば、「昭和40年度生まれ」とは、昭和40年4月2日から翌年4月1日までに生まれた者をいう。

図２　年間発育量の30年前との比較



（注）　年間発育量とは、例えば、平成7年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成14年度調査6歳の者の体位から平成13年度調査5歳の者の体位を引いたものである。

Ⅱ　健康状態

1　疾病・異常被患率の状況（**表4、別表3参照**）

平成25年度の定期健康診断における幼児、児童及び生徒の各疾病・異常の被患率は、「う歯(処置完了者＋未処置歯のある者)」では幼稚園、小学校、高等学校で第1位、中学校で第 2位を占め、被患率も幼稚園32.4%、小学校54.1%、中学校52.4%、高等学校59.4%と他の疾病等に比較して高くなっている。

「 裸眼視力1.0未満 」では、中学校が第1位を占め、小学校でも第2位と高く、被患率も小学校31.5%、中学校58. 6%と高くなっている。

表４　主な疾病・異常被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	う歯	32.4	う歯	54.1	裸眼視力1.0未満	58.6	う歯	59.4
2	歯列・咬合	2.3	裸眼視力1.0未満	31.5	う歯	52.4	歯垢の状態	8.7
3	アトピー性皮膚炎	1.8	鼻・副鼻腔疾患	6.2	眼の疾病・異常	6.7	歯肉の状態	7.2
4	心臓疾病・異常	1.3	その他の疾病・異常	5.4	歯垢の状態	5.0	鼻・副鼻腔疾患	6.5
5	ぜん息	1.1	歯列・咬合	4.6	鼻・副鼻腔疾患	4.5	心電図異常	3.9

2　主な疾病・異常被患率の推移（**別表3・4参照**）

（1）　栄養状態

平成25年度の栄養状態について「学校医から栄養不良又は肥満傾向で特に注意を要すると判定された者」の割合は、小学校が0.8%、中学校が0.7%、高等学校が0.7%となっている。

（2）　鼻・副鼻腔疾患

平成25年度の「鼻・副鼻腔疾患」（蓄のう症、アレルギー性鼻炎等）の被患率は、幼稚園が0.2%、小学校が6.2%、中学校が4.5%、高等学校が6.5%となっており、幼稚園、中学校、高等学校では前年度より低下しているものの、小学校では上昇している。

（3）　寄生虫卵保有（幼稚園及び小学校のみ）

平成25年度の「寄生虫卵保有者」の割合は、幼稚園が皆無、小学校が0.2%となっており、前年度と比べると、幼稚園、小学校ともに低下している。

（4）　心電図異常（6歳、12歳及び15歳時のみ）

平成25年度の「心電図異常」の者の割合は、小学校（6歳）が2.6%、中学校（12歳）が4.1%、高等学校（15歳）が3.9%となっており、前年度と比べると小学校、高等学校で上昇している。

（5）　ぜん息

平成25年度の「ぜん息」の被患率は、幼稚園が1.1%、小学校が2.1%、中学校が1.9%、高等学校が0.9%となっており、前年度と比べると小学校、中学校で上昇しており、幼稚園、高等学校では低下している。

（6） う 歯 （表5・図3・別表3参照）

「う歯」の被患率について過去の推移をみると、各学校種において多少の増減はあるものの全体として減少傾向にある。

また、平成25年度の被患率を平成16年度と比べると、幼稚園で34.3ポイント、小学校で19.2ポイント、中学校で25.7ポイント、高等学校で18.9ポイント減少している。

また、12歳の永久歯の1人当たりう歯等数は1.3本となり前年度と同数である。

表５　う歯の処置完了状況等の推移

単位：％

区分		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
幼稚園	計	66.67	58.86	53.20	52.3	45.8	48.5	x	38.2	35.9	32.4
	処置完了者	25.82	24.49	20.41	20.4	17.8	17.2	x	12.7	13.2	8.9
	未処置歯のある者	40.84	34.37	32.79	31.9	28.0	31.3	x	25.5	22.8	23.4
小学校	計	73.25	73.46	71.52	67.4	65.3	66.0	61.3	62.9	57.5	54.1
	処置完了者	32.64	32.78	30.86	30.0	28.4	29.8	26.3	27.0	25.4	23.8
	未処置歯のある者	40.60	40.67	40.66	37.5	36.9	36.2	34.9	35.9	32.1	30.4
中学校	計	78.09	69.17	66.66	64.0	64.6	58.8	55.7	58.5	52.8	52.4
	処置完了者	43.81	37.98	34.88	34.1	37.5	33.7	30.0	32.2	28.0	27.3
	未処置歯のある者	34.29	31.19	31.77	29.9	27.1	25.2	25.8	26.3	24.7	25.0
高等学校	計	78.29	73.99	71.17	73.4	72.6	69.1	62.2	62.1	57.1	59.4
	処置完了者	44.38	43.53	38.19	41.7	38.8	37.3	34.2	35.8	29.8	34.9
	未処置歯のある者	33.91	30.46	32.98	31.7	33.8	31.8	28.0	26.3	27.3	24.5

(注1) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

(注2) [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人（5歳は50人）未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

(注3) 平成19年度から小数第1位までの表記となった。

（7） 裸眼視力 （表6参照）

「裸眼視力1.0未満」の被患率について過去の推移をみると、各学校種別においてそれぞれ増減を繰り返している。

また、平成25年度の被患率を平成16年度と比べると、小学校で2.9ポイント、中学校で5.3ポイント上昇している。なお、幼稚園、高等学校の今年度の被患率は公表されていない。

表６　裸眼視力1.0未満の者の推移

単位：％

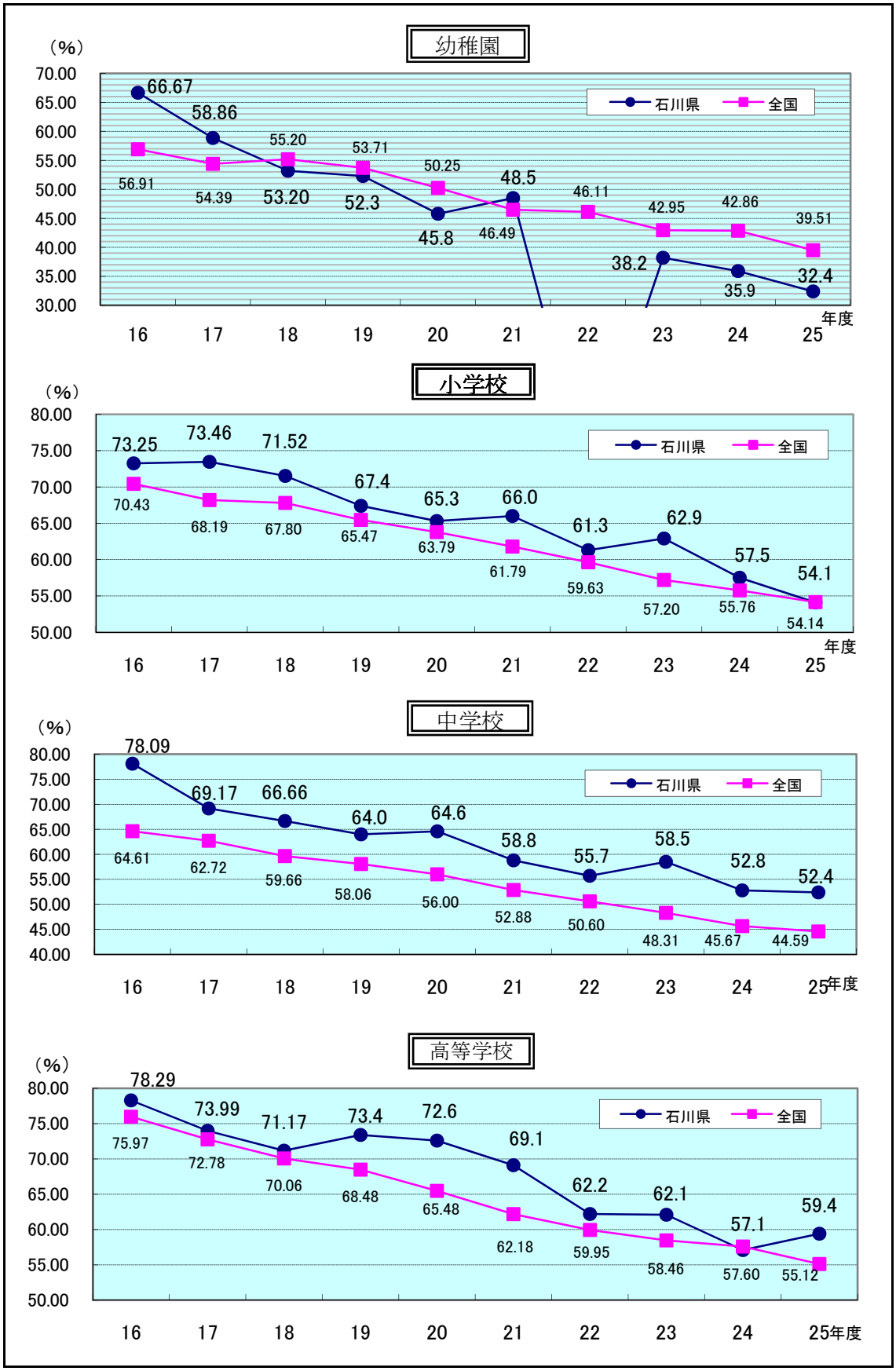
区分		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
幼稚園	計	23.22	10.65	x	15.3	11.7	x	x	x	x	x
	1.0未満0.7以上	14.66	6.63	x	10.8	8.6	x	x	x	x	x
	0.7未満0.3以上	7.91	3.65	x	4.2	2.4	x	x	x	x	x
	0.3未満	0.66	0.37	x	0.3	0.6	x	x	x	x	x
小学校	計	28.57	28.49	29.45	29.2	32.4	31.0	31.7	31.7	31.0	31.5
	1.0未満0.7以上	11.49	10.79	10.89	9.7	11.7	9.3	10.1	10.8	10.0	10.5
	0.7未満0.3以上	11.24	11.65	12.28	12.5	12.9	11.9	11.9	12.1	12.1	12.8
	0.3未満	5.84	6.05	6.29	7.0	7.8	9.8	9.8	8.9	8.9	8.3
中学校	計	53.26	56.11	51.41	58.9	57.5	59.0	61.3	60.7	56.5	58.6
	1.0未満0.7以上	9.75	10.28	7.14	10.5	10.7	10.1	11.5	11.0	8.0	10.2
	0.7未満0.3以上	16.91	18.61	20.09	22.2	18.3	21.5	19.9	18.4	16.6	18.1
	0.3未満	26.60	27.22	24.18	26.2	28.4	27.5	29.9	31.2	31.8	30.4
高等学校	計	71.29	64.07	x	61.0	65.3	68.9	x	74.4	x	x
	1.0未満0.7以上	8.90	19.18	x	8.0	9.6	9.5	x	9.4	x	x
	0.7未満0.3以上	13.74	16.58	x	14.6	17.1	15.2	x	12.9	x	x
	0.3未満	48.64	28.31	x	38.5	38.6	44.2	x	52.1	x	x

(注1) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

(注2) [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人（5歳は50人）未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

(注3) 平成19年度から小数第1位までの表記となった。

図3　う歯の被患率の推移



Ⅲ　全国値との比較

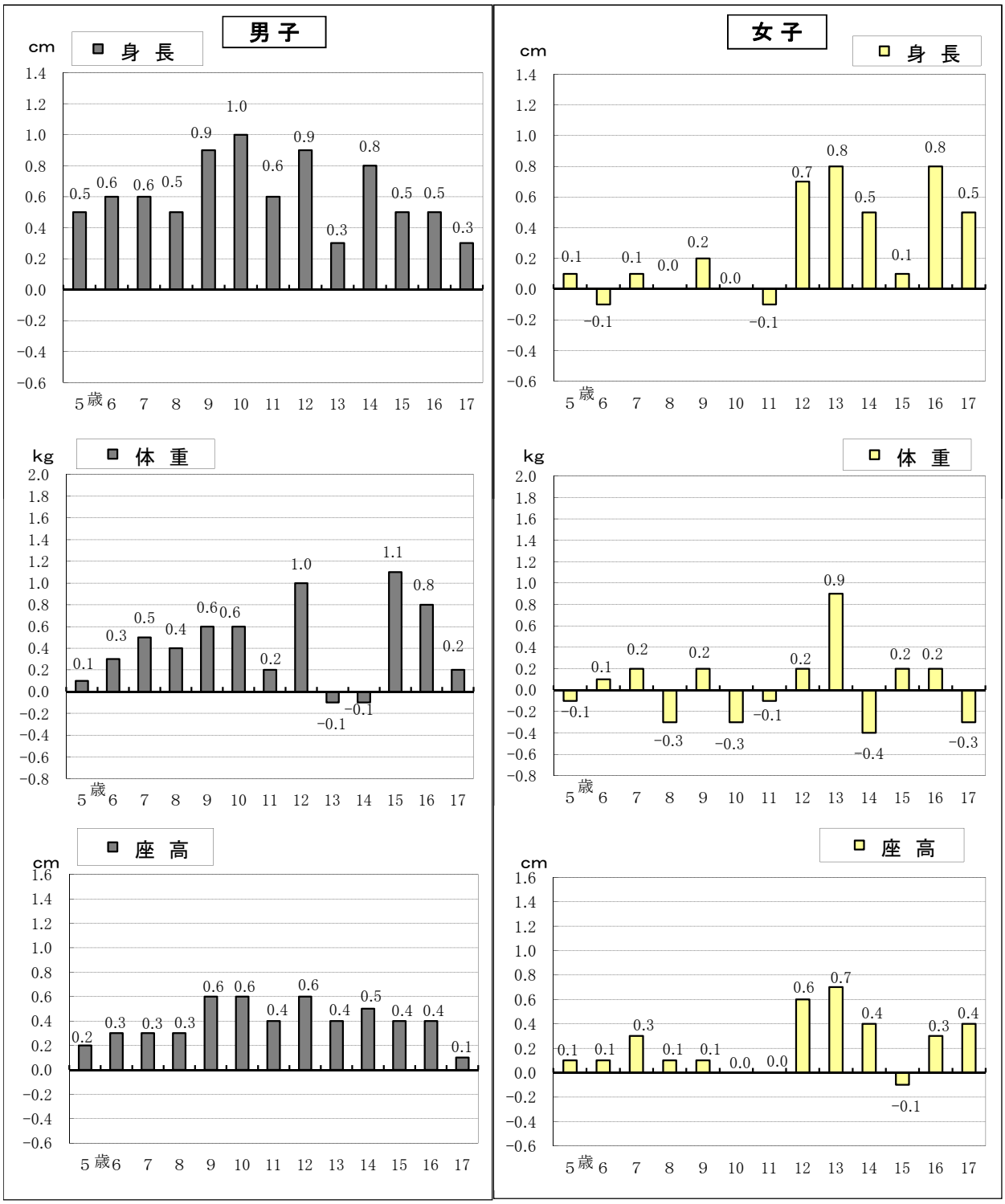
1　発育状態

(1) 全国平均体格との差　　（図４、別表１参照）

身長では、男子・女子ともに女子の6歳、11歳を除く全年齢で全国平均値と同数値または上回っている。体重では、男子・女子ともに増減を繰り返している。座高においては男子・女子ともに女子の15歳を除く全年齢で全国平均値と同数値または上回っている。

図４　男女別、年齢別体格の全国平均値との差

（全国平均値 ＝ 0.0）



(2) 総発育量の全国平均値との比較　　**（表７、別表５参照）**

17歳（平成7年度生まれ）の総発育量を比較すると、男子は身長0.2cm全国平均値を下回り、体重は0.4kg、座高は0.4cm全国平均値を上回っている。女子は身長0.6cm、座高は0.9cm全国平均値を上回っている。

表７　男女別、総発育量の全国平均値との比較

区分		男子（平成7年度生まれ）			女子（平成7年度生まれ）		
		5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B－A	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B－A
身長 cm	石川県	111.2	171.0	59.8	109.8	158.5	48.7
	全国	110.7	170.7	60.0	109.9	158.0	48.1
体重 kg	石川県	19.0	63.0	44.0	18.5	52.6	34.1
	全国	19.2	62.8	43.6	18.8	52.9	34.1
座高 cm	石川県	61.8	92.1	30.3	61.1	86.3	25.2
	全国	62.1	92.0	29.9	61.6	85.9	24.3

(3) 17歳（高校３年生）の身長の全国平均値との比較　　**（図７、図８参照）**

17歳の身長を全国値と比較すると、石川県は男女ともに全国平均値を上回っている。また、北海道から近畿地方は全国平均値を上回るところが多く、中国、四国及び九州地方は下回るところが多い傾向がある。

(4) 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較　　**（表８参照）**

平成25年度の肥満傾向児の出現率は男子では15歳の12.30％、女子では11歳の10.04％が最も高く、反対に男子では5歳の2.20％、女子も5歳の2.12％が最も低い。また、全国平均と比べると、男子は6歳・7歳・9歳・12歳・15歳において、女子は・7歳・9歳・11歳・13歳において上回っている。

表８　男女別、年令別、肥満傾向児率の全国値との比較

単位：％

区分		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
計	石川県	2.16	4.08	6.12	5.52	8.66	8.34	9.21	9.63	7.88	4.87	10.20	6.84	6.81
	全国	2.43	4.05	5.42	6.80	8.26	9.47	9.37	9.62	8.42	7.85	9.58	9.07	9.35
男	石川県	2.20	4.37	6.14	7.16	9.47	10.73	8.43	10.85	7.71	5.49	12.30	9.09	8.66
	全国	2.38	4.18	5.47	7.26	8.90	10.90	10.02	10.65	8.97	8.27	11.05	10.46	10.85
女	石川県	2.12	3.78	6.10	3.85	7.80	5.84	10.04	8.37	8.05	4.20	8.03	4.62	4.91
	全国	2.49	3.91	5.38	6.31	7.58	7.96	8.69	8.54	7.83	7.42	8.08	7.66	7.83

（注）肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20％以上の者である。
肥満度＝（実測体重－身長別標準体重）／身長別標準体重 ×100（％）

(5)　痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較　　（表９参照）

平成25年度の痩身傾向児の出現率は男子では11歳の2.58%、女子では12歳の3.44%が最も高く、反対に男子では6歳、女子では5歳が皆無となっている。

また、全国平均と比べると、男子では5歳・7歳、女子では11歳・14歳が全国平均値を上回っている。

表９　男女別、年令別、痩身傾向児率の全国値との比較

単位：%

区分		幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
計	石川県	0.25	0.09	0.69	0.37	1.52	1.85	2.95	2.92	2.02	2.15	1.71	0.51	1.32
	全　国	0.35	0.50	0.53	1.02	1.84	2.68	2.82	3.27	2.45	2.11	2.70	1.93	1.78
男	石川県	0.50	－	0.81	0.23	1.37	2.27	2.58	2.42	1.06	1.53	1.43	0.42	1.33
	全　国	0.36	0.39	0.40	0.98	1.78	2.48	2.90	2.43	1.46	1.57	2.70	1.88	1.84
女	石川県	－	0.19	0.56	0.51	1.67	1.40	3.34	3.44	3.05	2.83	2.01	0.60	1.31
	全　国	0.34	0.62	0.66	1.06	1.90	2.89	2.74	4.16	3.48	2.68	2.69	1.98	1.72

（注）痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が－20%以下の者である。
肥満度＝（実測体重－身長別標準体重）／身長別標準体重 ×100（%）

2　健康状態

主な疾病・異常被患率の全国平均値との比較（図5・6、別表3参照）

「う歯」の被患率は、幼稚園では7.1ポイント下回っているが、中学校が7.8ポイント、高等学校が4.3ポイント全国平均値を上回っている。

「裸眼視力1.0未満」の被患率では、小学校が1.0ポイント、中学校が5.8ポイント全国平均値を上回っている。

図5　う歯の被患率（全国平均値との比較）

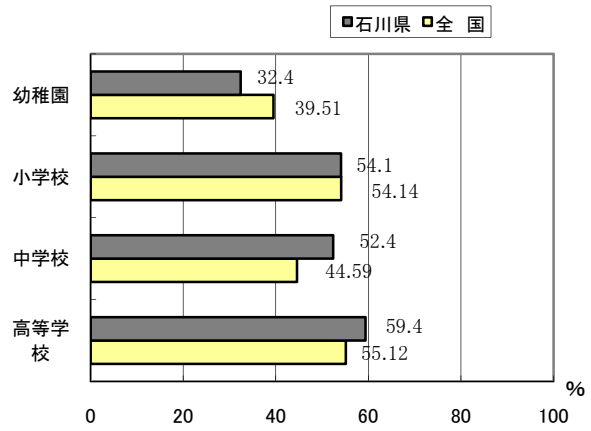
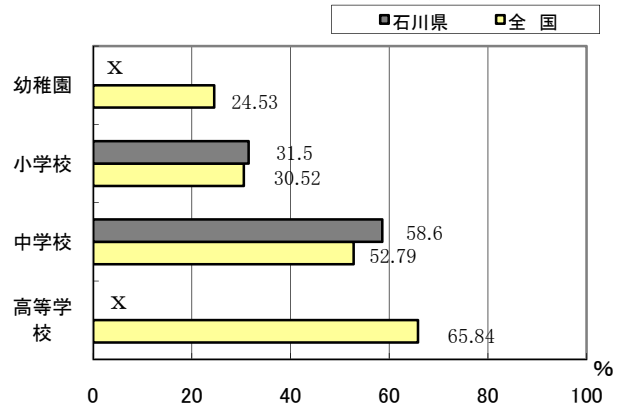


図6　裸眼視力1.0未満の被患率（全国平均値との比較）



（注）　全国数値は小数第２位まで、石川県数値は小数第１位までを表記。

図7　17歳男女平均値の推移

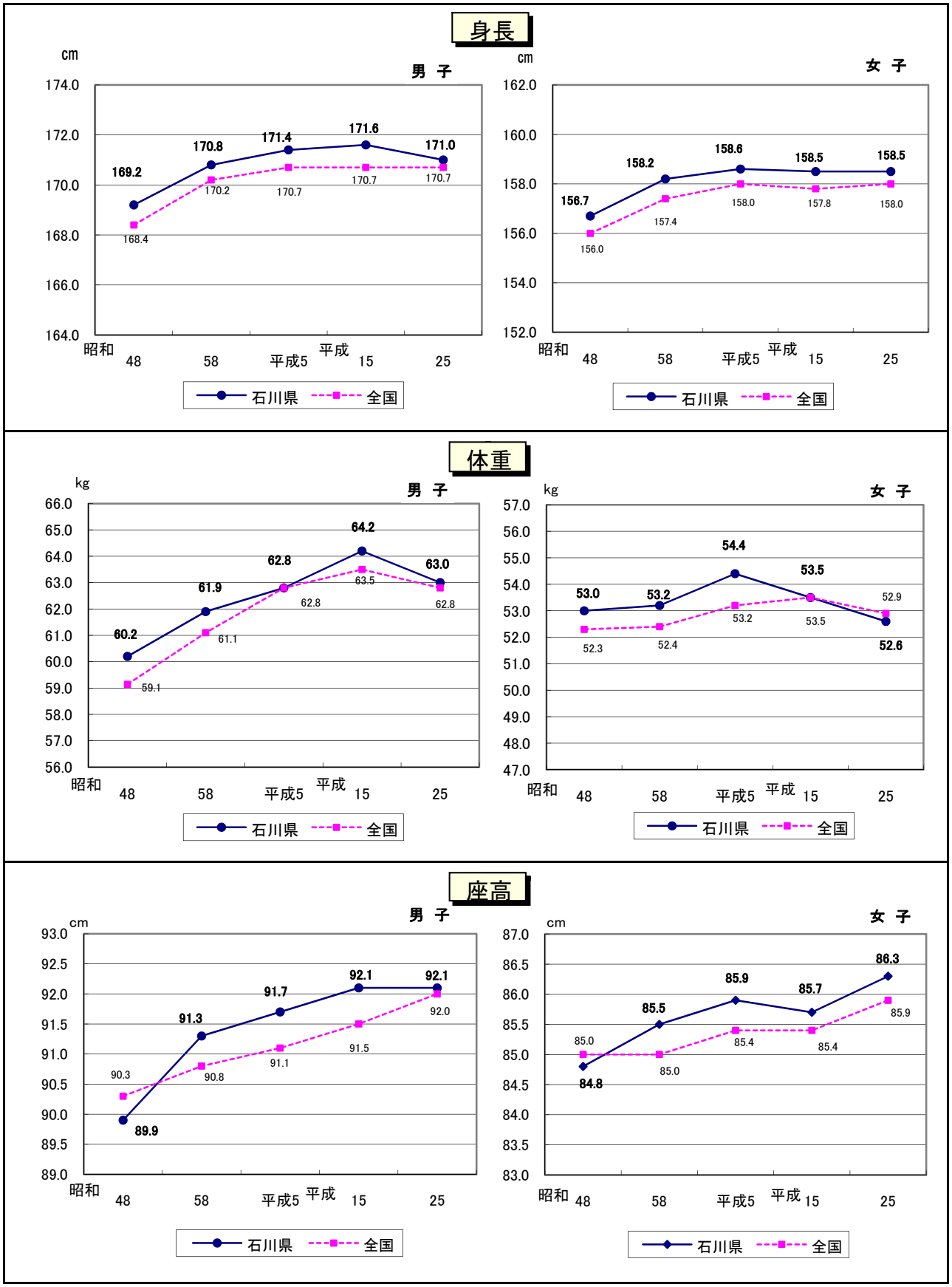
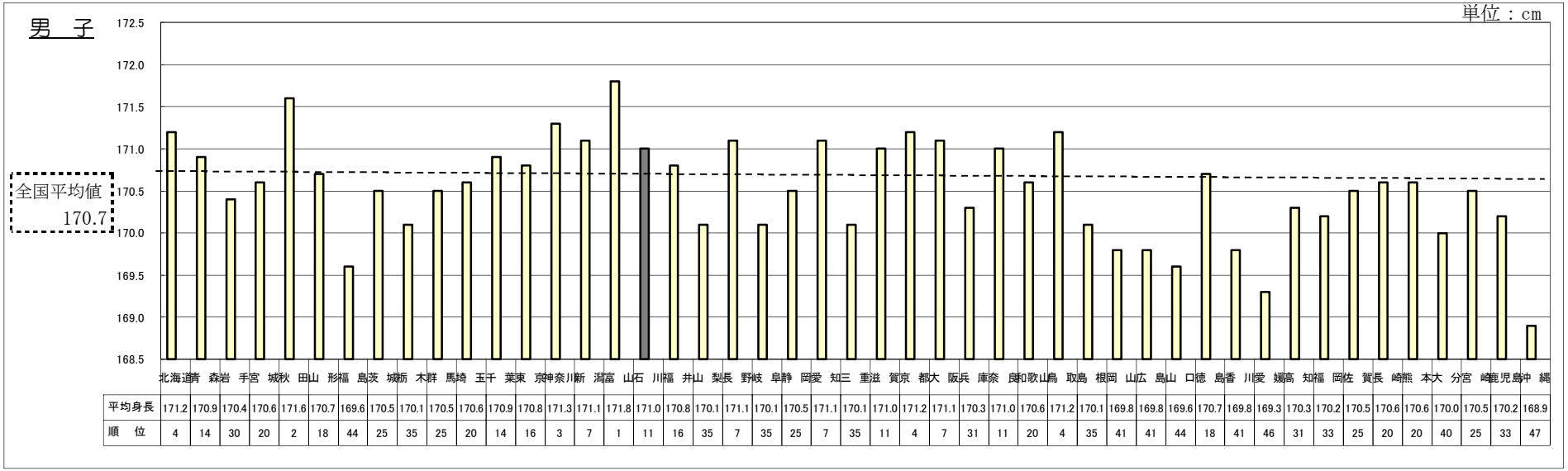
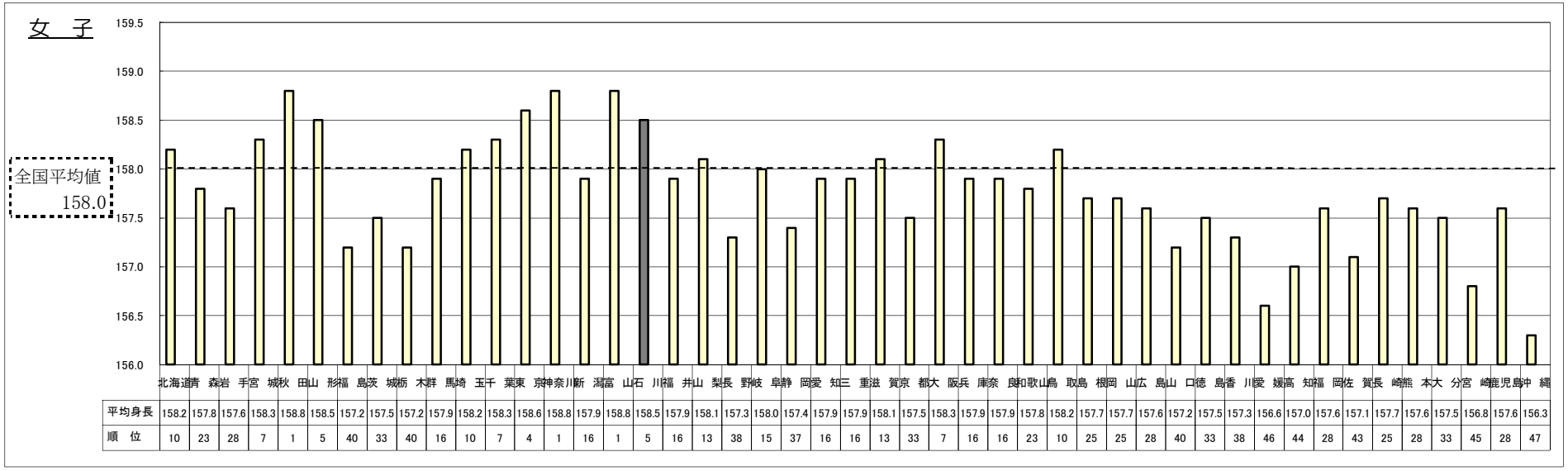


図8　都道府県別17歳の平均身長



	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
平均身長	171.2	170.9	170.4	170.6	171.6	170.7	169.6	170.5	170.1	170.5	170.6	170.9	170.8	171.3	171.1	171.8	171.0	170.8	170.1	171.1	170.1	170.5	171.1	170.1	171.0	171.2	171.1	170.3	171.0	170.6	171.2	170.1	169.8	169.8	169.6	170.7	169.8	169.3	170.3	170.2	170.5	170.6	170.6	170.0	170.5	170.2	168.9
順　位	4	14	30	20	2	18	44	25	35	25	20	14	16	3	7	1	11	16	35	7	35	25	7	35	11	4	7	31	11	20	4	35	41	41	44	18	41	46	31	33	25	20	20	40	25	33	47



	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
平均身長	158.2	157.8	157.6	158.3	158.8	158.5	157.2	157.5	157.2	157.9	158.2	158.3	158.6	158.8	157.9	158.8	158.5	157.9	158.1	157.3	158.0	157.4	157.9	157.9	158.1	157.5	158.3	157.9	157.9	157.8	158.2	157.7	157.7	157.6	157.2	157.5	157.3	156.6	157.0	157.6	157.1	157.7	157.6	157.5	156.8	157.6	156.3
順　位	10	23	28	7	1	5	40	33	40	16	10	7	4	1	16	1	5	16	13	38	15	37	16	16	13	33	7	16	16	23	10	25	25	28	40	33	38	46	44	28	43	25	28	33	45	28	47